

会社概要・株式の状況 (2018年9月30日現在)

商号	フィンテック グローバル株式会社
設立	1994年12月7日
資本金	55億5,141万9,350円
連結従業員数	156名
連結子会社数	18社
発行済株式の総数	185,986,400株
単元株式数	100株
株主数	33,557名

役員 (2018年12月19日現在)

代表取締役社長	玉井 信光
取締役副社長	鷲本 晴吾 (上席執行役員)
取締役	山中 秀介 (フィンテックグローバルトレーディング(株) 代表取締役)
	千田 高 (上席執行役員)
	渡邊 基樹 ((株)ムーミン物語 代表取締役社長)
	木村 喬 (社外取締役)
常勤監査役	川崎 史顕 (社外監査役)
監査役	太田 健一 (社外監査役)
	大山 亨 (社外監査役)

株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
定時株主総会	12月
基準日	9月30日
中間配当基準日	3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所マザーズ市場(証券コード: 8789)
公告の方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL	http://www.fgi.co.jp/ir/download/
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-288-324(フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土日祝日を除く)



フィンテック グローバル株式会社

金融商品取引業(第二種金融商品取引業、投資助言・代理業)
登録番号: 関東財務局長(金商)第1469号

メツァ開業記念株主優待
株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、メツァ開業を記念して、メツァ開業記念株主優待を実施することといたしました。
2019年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された一定の株式数以上を保有されている株主様を対象に、メツァに係る株主優待を実施いたします。
具体的な内容については、当社ウェブサイトをご覧ください。
.....

<http://www.fgi.co.jp/>

本社 〒141-0021 東京都品川区上大崎三丁目1番1号
目黒セントラルスクエア15F
Tel. 03-6456-4600(代表)
Fax. 03-6456-4601



FGI

FinTech Global Incorporated

The firm of innovative financing

フィンテック グローバル株式会社



2018年11月9日
メツァ ビレッジが
埼玉県飯能市にオープンしました。

証券コード: 8789



**MOOMIN
VALLEY
—PARK—**®
© Moomin Characters™

そして、2019年3月16日
ムーミンバレーパークが
オープンします。

第 **24** 期
事業報告書
2017.10.1～2018.9.30

投資銀行事業は、収益の源泉となる新規投融資を加速。2019年3月に全面開業するメツァとともに事業体制を拡充して収益基盤を確立します。

当社グループは、企業を支援するブティック型投資銀行として、投資銀行業務と企業投資を両輪とする投資銀行事業を展開しています。

2018年9月期におきましては、前期においてメツァの資金調達が目途が立ったことから、不動産事業子会社売却、メツァ隣接地の証券化等により確保した資金的リソースや人的リソースを、収益性が高い本業の投資銀行事業に再配分し諸施策を実行いたしました。この結果、投資銀行事業の新規投融資（営業投資有価証券、営業貸付金、販売用不動産および仕掛販売用不動産に計上される投融資に限る〔メツァ関連を除く〕）は前期の483百万円から当期は1,953百万円に達し、当期中の収益計上に貢献するとともに次期の収益獲得に向けた案件が進行しています。これらの結果、売上高は不動産事業の売上がなくなり前期比48.6%減の3,689百万円となったものの、新規投融資・投資回収の増加により粗利率の高い投資銀行事業の売上高が増加し、また不動産事業が原価率の高い事業モデルであったことなどにより、売上総利益は前期比39.1%増の2,261百万円となりました。しかしながら、メツァ開業準備の先行費用をカバーするに至らず、営業損失は1,072百万円となりました。

2019年9月期は、メツァ開業に向けて投入してきた経営資源をさらに投資銀行事業に配分するとともに、2018年12月発行の第19回新株予約権（第三者割当）によって調達する資金により

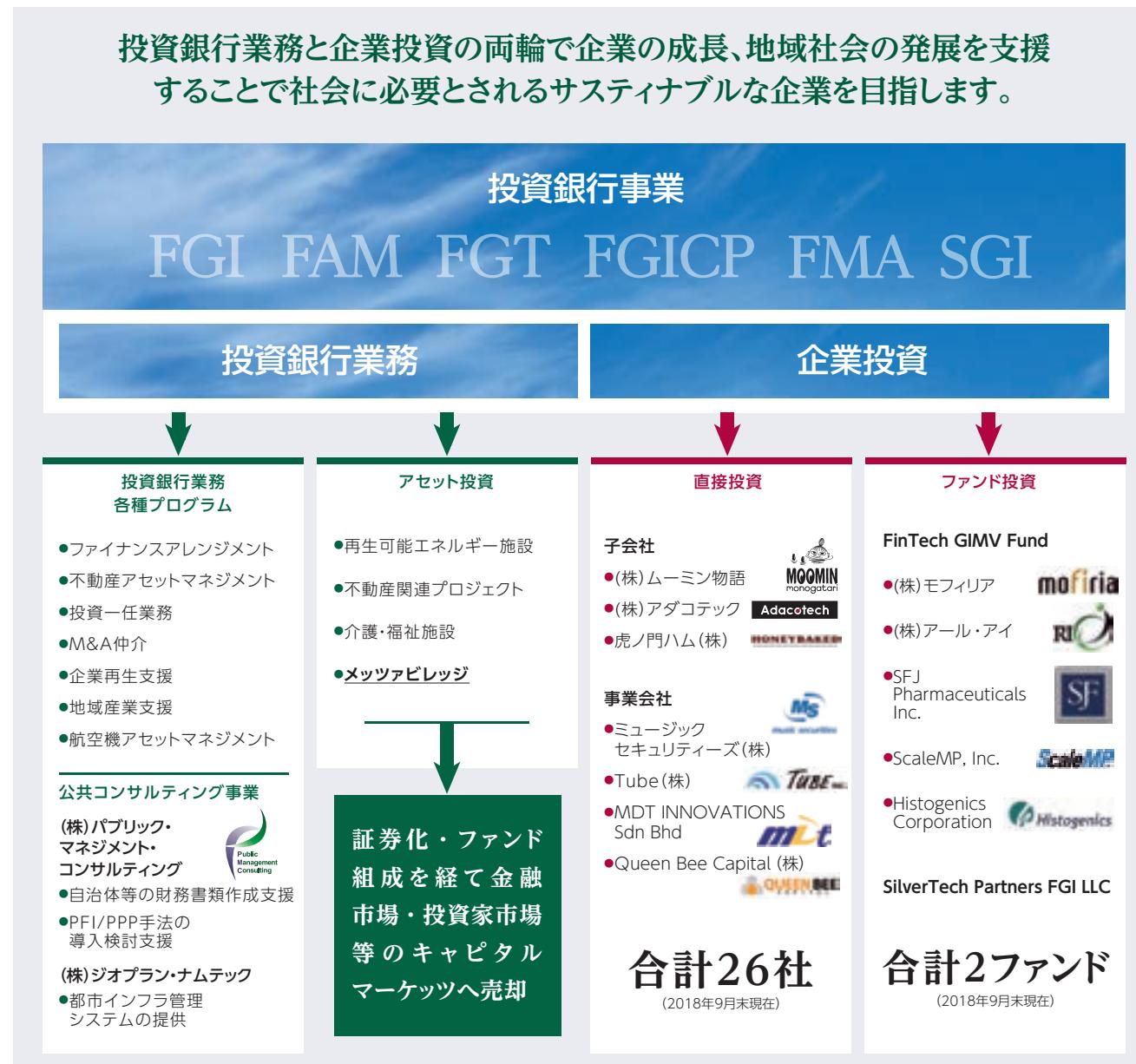
投融資を増加させることによって、業績を伸ばさせたいと考えています。金融機関や税理士・会計士等のネットワークを更に拡大して、不動産小口化投資商品等の販売、M&A仲介、コンサルティング活動の充実、アセット投資の拡大等を図っていきます。メツァにつきましては、メツァビレッジが2018年11月9日に開業し多くのお客様をお迎えしており、順調にスタートしました。ムーミンバレーパークは2019年3月16日のオープンに向けて着実に準備を進めています。メツァでは、不動産証券化など当社グループが培ってきた投資銀行業務および潜在性・将来性豊かな企業に投融資する企業投資の総合的なノウハウを発揮して開発を進めてまいりました。今後は着実な運営立ち上げと集客強化による収益基盤の確立とともに、地域との連携を更に深め、地方創生に貢献できるような施設にしていきたいと考えております。同時に開発不動産の本格的な売却（証券化を含む）による投資回収という課題にも取り組んでまいります。

投資銀行の本来の社会的役割と存在意義を再認識し、株主の皆様、そして社会の期待と信頼に応えられるよう、役職員一同、鋭意努力を重ねてまいります。何卒一層のご支援を賜りたく、よろしくごお願い申し上げます。

2018年12月

代表取締役社長

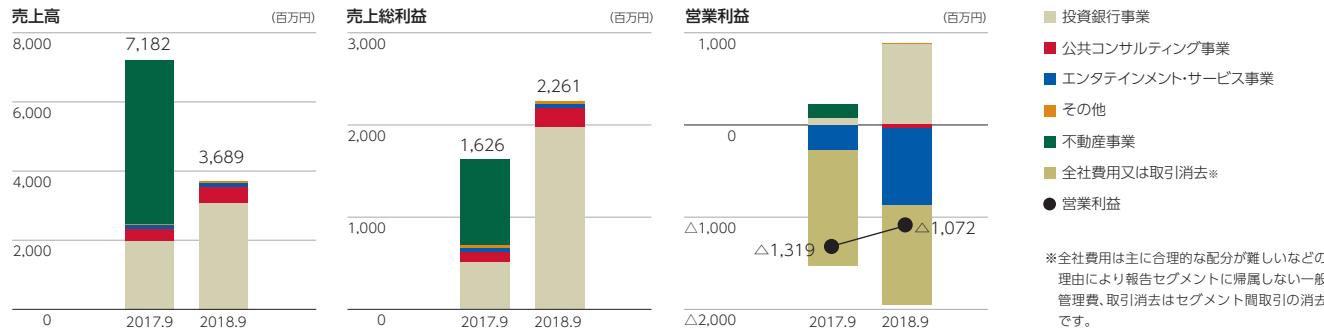
玉井 信光



2018年9月期連結業績ハイライト

- 減収増益ながらメッツァ先行費用をカバーできず営業損失。
- FGI単体は黒字化。
- 投資銀行事業へ経営資源をシフト。投資回収等により売上総利益は前期比39.1%増の22億円へ拡大。投資銀行事業は回復基調に。

(単位:百万円)	2017年9月期	2018年9月期	前期比
売上高	7,182	3,689	△3,493
売上総利益	1,626	2,261	635
営業利益	△1,319	△1,072	246
経常利益	△1,341	△1,227	114
親会社株主に帰属する当期純利益	△1,358	△820	538

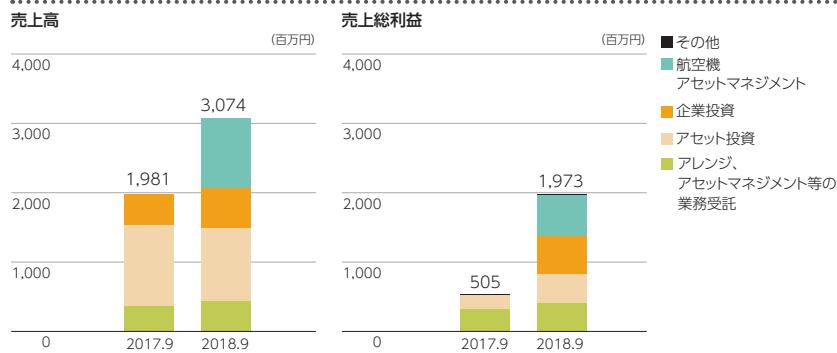


2018年9月期連結業績のポイント

- 投資銀行事業の売上総利益は、前期比275%増。
- 投融資資金量の増大により投資銀行事業の収益力が向上。

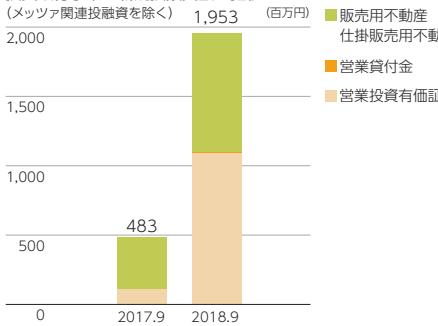
メッツァ事業への投資がひと段落し、投資銀行事業における投融資額(メッツァ関連を除く)が増大。

投資銀行事業セグメントの業務別業績



- ファンド投資の投資回収が大きく伸び、アセット投資の回収も倍増。
- M&Aにより、航空機アセットマネジメントを行うSGL-Aviation Services等を2Qから連結。
- 特別利益に計上されている不動産会社の株式売却益267百万円を加算すれば、本業は大きく伸長。

投資銀行事業の新規投融資額の推移



2017/9期 メッツァ着工のため、資金的リソースをメッツァへ集中。新規投融資を抑制。

2018/9期 不動産事業子会社売却等の投融資回収により資金的リソースを獲得。新規投融資が増加。

セグメント別事業総括及び次期重点取り組み

次期(2019年9月期)は、更に投資銀行事業へ経営資源を投入。メッツァは、着実な運営立ち上げと集客強化による収益基盤確立を目指す。

	2018年9月期 事業総括	2019年9月期 重点取り組み
投資銀行事業	<p>投資銀行業務</p> <p>アセット投資/アセットマネジメント/M&Aへ経営資源投入</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1Qより投資運用会社を新規連結。 ●アセット投資は、メッツァに隣接する不動産の証券化、及び運用不動産売却により投資回収。 ●航空機アセットマネジメント会社(SGL-Aviation Services)の持株会社の株式取得。2Qより損益を連結。 ●事業承継ニーズに対応するため、M&A仲介を本格始動。 	<p>投資銀行業務</p> <p>組織変更等(2018年10月)で、金融商品の組成・販売、M&A仲介等の拡大のための体制を整備。顧客基盤強化へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●従来のアレンジメントや公会計コンサル等において、組成案件に融資する金融機関や地方公共団体の公会計の実務をサポートする税理士・会計士等のネットワークを更に拡大。 ●不動産小口化投資商品等の金融商品を組成。開拓した顧客に販売。顧客ニーズに応えるため、組成する金融商品のラインナップや金融サービスも拡大し、提供する価値を広範化。 ●M&A仲介および事業承継コンサルを充実。 ●アセット投資は、動産を含む様々な領域へ拡大。 ●不動産アセットマネジメントは投資家ニーズに応じた投資戦略によるファンド組成で受託資産拡大。
企業投資	<p>ファンド投資の回収により、収益は大きく伸長</p> <ul style="list-style-type: none"> ●米国ファンド・国内企業等への営業投資有価証券、営業貸付金としての新規投融資の総額は11億円。 ●FGFライフサイエンス・プロジェクトのエグジットにより420百万円の収益計上。 ●投資先の不動産会社の売却益267百万円は特別利益に計上。 	<p>新規投資と投資先に応じて価値向上策を深化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有望な新規投資先や事業分野の開拓を進め、投資額を拡大。 ●投資エグジットのため、投資先支援等により、投資価値を向上させ価値実現へ。
エンタテインメント・サービス事業	<p>メッツァ事業(メッツァビレッジ開発事業)</p> <p>建設工事は、期末後の10月2日に計画通り完成引渡し</p> <ul style="list-style-type: none"> ●メッツァビレッジ建設資金調達のため、第18回新株予約権を発行。8月10日までに全て行使。19.7億円(差引手取額)を調達。 <p>ムーミン物語が第三者割当増資により2018年2~11月に28億円調達</p> <p>2018年10月、地域SPCが地域金融機関から長期ローン56億円調達</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本のムーミンのライセンスを一括管理する(株)ライツ・アンド・プランズを設立。2019年9月期より連結予定。 ●メッツァビレッジは2018年11月にオープン。(P7参照) ●2018年10月2日付で、ムーミンパレーパークの不動産を保有する特別目的会社の飯能地域資源活用合同会社(地域SPC)が、2017年締結の契約に従い、金融機関4行から56億円を借入。 ●ムーミン物語が内外装(動産)工事代金942百万円を調達するリース契約締結。 	<p>メッツァ事業(メッツァビレッジ開発・運用事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開発不動産の本格的な売却(証券化を含む)。 <2019年9月期以降> <p>着実な運営立ち上げと集客強化により、収益基盤確立へメッツァビレッジ(2018年11月オープン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●着実な立上げとベース収益の確保。 ●イベント実施により、集客を拡大させ自社飲食施設等および外部テナントの収益の安定化を図り、更に施設の魅力を高める。 <p>ムーミンパレーパーク(2019年3月オープン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開業に向けてプロモーションを強化、来場者の確保を狙う。 ●物販事業ではオリジナル商品の企画販売およびシーズン毎の新商品の投下を行い、販売促進を図る。 ●飲食事業では、キャラクターを活用した飲食を提供し、収益を確保。
公共コンサルティング事業	<p>財務書類コンサルと並行し、PPP/PFI・公営企業のコンサル推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市場拡大が見込まれるPPP/PFI手法の導入検討等を推進。 ●既取引の地方公共団体に対して、公営企業の経営戦略策定のコンサル受託の営業活動を推進。 ●都市インフラ管理システム開発を行う(株)ジオプラン・ナムテックの株式取得。3Qより損益を連結。 	<p>既存顧客からの継続受注と新規取引先の開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公会計事業は、財務書類作成支援の継続受注と新規取引先の開拓。 ●都市インフラ管理システム開発に係る事業は、保守案件等の受注を基礎に売上確保。さらに受注チャンネルを拡大させる。

メッツァ事業一開発に係る投資状況	メッツァビレッジ (2018年11月開業)	ムーミンバレーパーク (2019年3月開業予定)
契約者	発注者:フィンテック グローバル(株) 受注者:メッツァプロジェクト飯能共同企業体	発注者:飯能地域資源活用合同会社 受注者:メッツァプロジェクト飯能共同企業体
敷地面積	16.3万㎡(エリア全体。水面は含まず。)	7.3万㎡(エリア全体。水面は含まず。)
延床面積	4,339㎡(立体駐車場を含まず)	7,596㎡
スケジュール	2017年 7月 3日 着工(土木) 2017年 7月28日 着工(建築) 2018年10月 2日 完成引渡	2017年 7月3日 着工 2018年10月2日 完成引渡
工事請負額	土木工事12億円・建築工事11億円	建設工事(土木・建築)34億円
その他の投資		
主要な設備	立体駐車場5億円	特殊内外装20.6億円 発注者:(株)ムーミン物語(対象:動産) 飯能地域資源活用合同会社(対象:不動産) 受注者:(株)乃村工藝社 日程:2018年2月15日 着工 2019年1月31日完成引渡(予定) その他の内外装1.8億円
設計等その他	14億円(既支払額を含む。)	17.6億円(既支払額を含む。土地取得額は含まず。)
投資総額(暫定)	42億円	74億円

(注) 1. 2018年9月末時点の開発に係る投資額(予定を含む)を記載しております。
2. 上記金額は、販売用不動産、仕掛販売用不動産、有形固定資産又は無形固定資産等へ計上しております(予定を含む)。

**FGIの地方創生―
「点」から「面」へ地方創生を広げる**



当社は2015年、埼玉県飯能市との間で「地方創生の推進に関する基本協定」を締結し、「メッツァ」の開設や観光振興などを目的に相互に連携、協力を推進しており、今回の施工は飯能市内企業のジョイントベンチャー（地元JV）に発注をしています。過去のテーマパークの施工では、大手または中堅ゼネコンに発注することが一般的ですが、当社の地方創生への強い思いに対して地元JV、地域金融機関および関係者の皆様の深いご理解によって地元JVへの発注が可能となりました。なお、これらの開発資金は当社が多くのアレンジ実績を積み上げてきた「開発型不動産流動化」手法を応用し、不動産の価値を顕在化させることによって調達に至りました。

メッツァ運営の関連図

メッツァビレッジ(2018年11月開業)

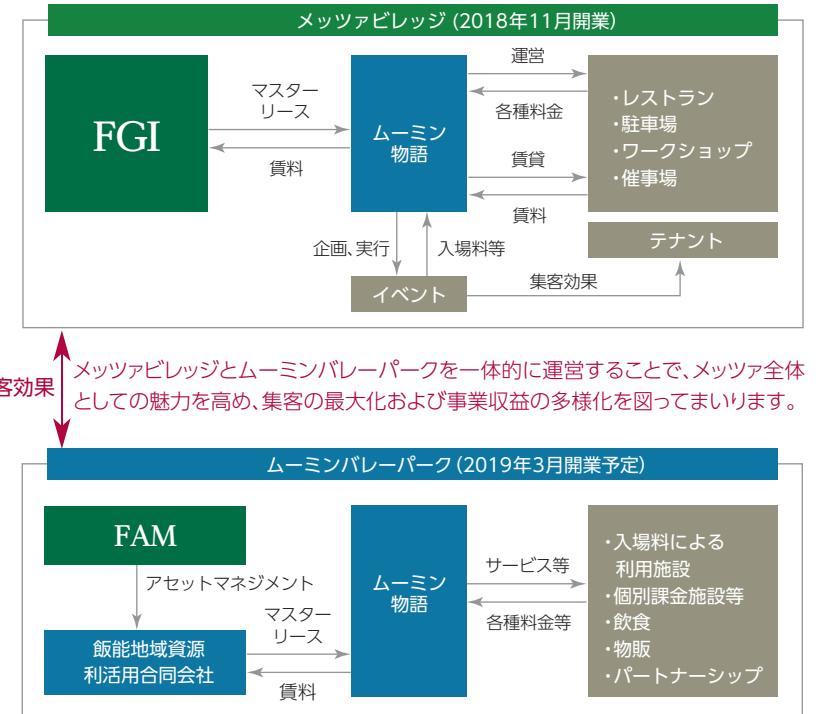
当社の連結子会社である(株)ムーミン物語は当社とのマスターリース契約※により、メッツァビレッジ関連施設を一括して借り上げ、(株)ムーミン物語が自社運営、またはテナントに賃貸し、各種料金および賃料等から収益を上げることとなります。

※マスターリース契約:施設等を一括して賃貸し、その賃借人が実際の賃借人にさらに賃貸する方式。

ムーミンバレーパーク(2019年3月開業予定)

(株)ムーミン物語は飯能地域資源活用合同会社※とのマスターリース契約により、関連不動産を一括して借り上げ、テーマパーク運営、飲食事業および物販事業を行います。その他、パートナーシップ収入もあります。

※飯能地域資源活用合同会社:ムーミンバレーパークの不動産を保有・管理するために組成された特別目的会社(SPC)です。当社の連結子会社となっています。



相互の集客効果
メッツァビレッジとムーミンバレーパークを一体的に運営することで、メッツァ全体としての魅力を高め、集客の最大化および事業収益の多様化を図ってまいります。

メッツァ事業のねらいは、地方創生を「点」ではなく、「面」で実現することにあります。当社は従前より地方の課題に対して積極的に取り組み、ヘルスケア施設の開発や商業施設等の大規模改修に係る証券化・流動化などで実績を積みあげてきました。これらの個別課題を解決する「点」の推進に加えて、より高次での地方創生を行う上では「面＝街の活性化」の推進が必要です。「メッツァ」は、テーマパーク事業の成功を局所的に目指すものではなく、「ムーミンバレーパーク」という優良コンテンツと、地域連携も企図した「メッツァビレッジ」を一体的に運営し、さらに様々な地域活性化プロジェクトと連動することで、飯能市とその周辺地域も含めた街(面)の活性化を目指しています。



メッツァビレッジ(2018年11月開業) ヴァイキングホール

北欧のライフスタイルを体験できるメツァビレッジが、 2018年11月9日オープン

メツァビレッジの詳細はこちらから
<https://metsa-hanno.com/metsavillage/>



北欧時間が流れる森と湖での体験を通じて、こころの豊かさの本質に気づき、日常生活へと持ち帰れる場所を目指す「メツァ」。2018年11月9日、北欧のライフスタイルを体験できる「メツァビレッジ」が開業しました。



多くの北欧ブランド雑貨、地元野菜等を集めたマーケット棟



- A. エントランスロード
- B. インフォメーション
- C. マーケット棟
- D. レストラン棟
- E. クラフトビール&グリル(屋外レストラン)
- F. カフェ&雑貨
- G. イベント・催事スペース
- H. ワークショップスペース①
- I. ワークショップスペース②
- J. イベント広場
- K. カヌー工房
- L. カヌーレンタル受付
- M. ポート乗り場・桟橋

埼玉県飯能市に位置する宮沢湖を臨み、森と湖を調和させた「メツァ」は「メツァビレッジ」と「ムーミンバレーパーク(2019年3月開業予定)」2つのゾーンで構成されます。



メツァビレッジ開業式典

© Moomin Characters™



地元NPOと連携し、地元産西川材を使用したカヌーを楽しむこともできる(認定NPO法人名栗カヌー工房 代表理事 山田直行さん)



メツァビレッジ イベント

「チームラボ 森と湖の光の祭」を開催



“屋外”でのアート空間の創出で注目されるチームラボが、宮沢湖と湖畔の森の豊かな自然と調和し、人々の存在によって変化する、本格的なインタラクティブな光のアート空間を生み出します。

会期: 2018年12月1日(土)~2019年3月3日(日)

詳細: <https://metsa-hanno.com/event/958/>



「ムーミンバレーパーク」が 2019年3月16日にオープン

ムーミンバレーパークの詳細はこちらから
<https://metsa-hanno.com/moominvalleypark/>



**MOOMIN
VALLEY
—PARK—**
 © Moomin Characters™

展示施設「KOKEMUS(コケムス)」

フィンランド語で“体験！”を意味する「KOKEMUS(コケムス)」は、ムーミンの作者トーベ・ヤンソンの人生と作品を織り交ぜ、訪れた方が追体験をしながら、ムーミンの物語を知って頂ける施設です。

2019年3月16日に、ムーミンの物語を主題とした「ムーミンバレーパーク」がオープンとなります。「ムーミンバレーパーク」では、ムーミン一家が暮らすムーミン屋敷やムーミンの物語を追体験できる複数のアトラクション、展示施設に加えて、世界最大級の品揃えとなるムーミンのギフトショップ、レストランでは北欧とムーミンの世界観を融合したオリジナルメニューも楽しめます。



「KOKEMUS(コケムス)」



常設展コーナー

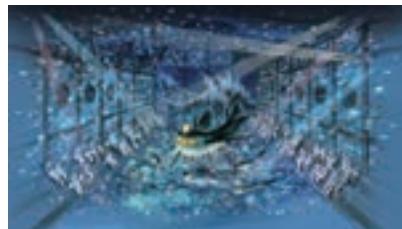


「夏の家」を模した「トーベの記憶シアター」

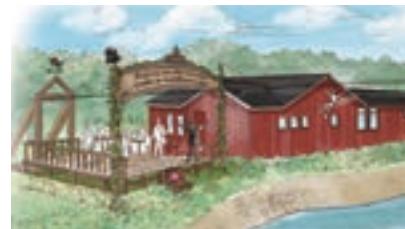


ムーミン谷の売店
 [Muumilaakso Kauppa(ムーミラークソ カウッパ)]

アトラクション、ライブエンターテインメント



「海のオーケストラ号」



「飛行おにのジップラインアドベンチャー」



「エンマの劇場」

連結財務諸表

連結貸借対照表

科目	当期末 (2018年9月30日現在)	前期末 (2017年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	9,881,308	10,122,083
現金及び預金	4,267,738	3,219,805
受取手形及び売掛金	644,824	196,840
営業投資有価証券	1,017,184	1,069,032
営業貸付金	576,924	609,147
販売用不動産	304,516	2,287,519
仕掛販売用不動産	2,781,914	2,556,159
商品	15,298	10,084
繰延税金資産	2,129	17,853
その他	388,011	239,382
貸倒引当金	△117,232	△83,739
固定資産	4,134,963	2,810,440
有形固定資産	3,317,713	2,238,234
無形固定資産	343,188	38,609
投資その他の資産	474,061	533,596
資産合計	14,016,272	12,932,524
(負債の部)		
流動負債	4,803,592	3,785,430
支払手形及び買掛金	293,215	152,025
短期借入金	—	2,751,380
1年内償還予定の社債	—	30,000
1年内返済予定の長期借入金	3,586,081	293,847
未払法人税等	73,216	42,335
繰延税金負債	1,562	7,967
賞与引当金	114,928	72,795
その他	734,587	435,078
固定負債	661,528	3,820,631
社債	—	30,000
長期借入金	532,787	3,513,399
繰延税金負債	1,438	113,485
退職給付に係る負債	91,640	119,661
その他	35,662	44,085
負債合計	5,465,120	7,606,062
(純資産の部)		
株主資本	7,313,879	4,800,789
資本金	5,551,419	4,549,016
資本剰余金	4,149,561	1,812,727
利益剰余金	△2,387,101	△1,560,954
その他の包括利益累計額	△2,588	△530
新株予約権	54,605	50,142
非支配株主持分	1,185,254	476,060
純資産合計	8,551,151	5,326,461
負債・純資産合計	14,016,272	12,932,524

連結損益計算書

科目	当期 (2017年10月1日から 2018年9月30日まで)	前期 (2016年10月1日から 2017年9月30日まで)
売上高	3,689,183	7,182,376
売上原価	1,427,968	5,556,332
売上総利益	2,261,215	1,626,043
販売費及び一般管理費	3,333,458	2,945,209
営業損失(△)	△1,072,243	△1,319,165
営業外収益	12,706	93,131
営業外費用	168,020	115,722
経常損失(△)	△1,227,557	△1,341,756
特別利益	301,367	11,595
特別損失	40,192	41,013
税金等調整前当期純損失(△)	△966,383	△1,371,173
法人税等	29,789	9,775
当期純損失(△)	△996,173	△1,380,949
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△176,068	△22,636
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△820,104	△1,358,313

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当期 (2017年10月1日から 2018年9月30日まで)	前期 (2016年10月1日から 2017年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,978,109	△1,153,214
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,008,303	△1,026,809
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,771,530	2,937,348
現金及び現金同等物に係る換算差額	△24,255	△33,240
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	760,861	724,083
現金及び現金同等物の期首残高	2,969,805	2,240,523
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	117,054	5,197
現金及び現金同等物の期末残高	3,847,721	2,969,805